

令和5年度 第五小学校 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞ 1 豊かな心の醸成 2 確かな学力の向上 3 健やかな体の育成

	学校経営方針	具体的な内容	肯定的評価				評価	分析結果	改善策	学校運営連絡委員		学校の見解と今後の方向性
			教職員	保護者	児童	平均				評価	コメント	
1	「豊かな心の醸成」の育成を目指す	人権教育の推進を図る。自分のよさを実感させ、自己肯定感を高めるとともに、相手を大切に育てる。	100	77	89	A	保護者に肯定的評価が低い。学校は人権教育を推進しているが、保護者に伝わっていないことが考えられる。	HPやスクリレを通して保護者に人権教育を推進している具体例などを伝えていく。	A	親が子愛する、一人の人間として認めるという自己肯定の基本が各家庭に浸透して欲しい。思いやりや協調性に欠ける実態を強く感じることから、保護者への理解を含めた育成目標達成に向けて引き続き努めて欲しい。	人権教育プログラムを活用して児童の人権感覚を磨き醸成させていったり、たてわり班活動やいじめゼロ宣言運動を実施したりして人権教育を推進していく。学校経営説明会や保護者会、日頃の教育活動全般を通して保護者に人権教育の推進状況を伝えていく。	
		道徳教育の推進を図る。夢や希望を育み、心の教育の充実をさせるとともに、社会で生きる土台を培う。	100	83	92	A	道徳の授業や地区公開講座を通して学校では道徳の授業内容や意義を伝えているが、道徳授業地区公開講座の参加が少ない。全体で42%、学年ごとの差が大きい。	PTA役員や運営委員の協力を通し、参加率50%を目指し、道徳授業地区公開講座の参加者を増やす。	A	先生方が工夫して道徳の授業をしていると思った。道徳授業地区公開講座への保護者の参加は高学年になるほど少ないように見受けられる。増えるように今後も努力をして欲しい。	PTAに協力を求めるとともに、道徳の授業や講演会の工夫を行うことで道徳授業地区公開講座での保護者の参加率を高めていき、家庭と連携を模索しながら道徳教育を推進していく。	
		特別支援教室や教育相談体制の活用を通じて、特別な支援を要する指導の充実を図る。	100	79	89	A	特別な支援を要する指導の充実について、保護者に見取る場が理解されていないことが評価が低い原因と考えられる。	児童や保護者への特別支援教育の充実について、学校教育説明会や報告会で特別支援教育について説明を行う。	A	特別支援教育の充実には支援を必要としない親や子供ももつと知るべきである。特別支援を恥ずかしいという感覚が、必要な支援と思えるようになって欲しい。	保護者アンケートでの保護者の評価をやり易くなるように工夫していく。児童には特別支援教育理解教育を行ったり、保護者には学校経営説明会で特別支援教育についての説明を行ったりして児童の適正な就学につなげていく。	
2	「確かな学力の向上」の育成を目指す	ICTを取り入れた教材の工夫やめあて・振り返りのある授業づくりを通じ、児童の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。	92	85	76	84	A	デジタル教科書を使うことで資料の提示が容易になり、黒板を有効活用でき、黒板で具体的操作をして考えることができた。	教員の授業力向上を図っていくとともに、家庭からの学習意欲向上の啓発を行う。	A	ICT化の授業の中でも、わかりやすい絵による算数の授業を見ることができ良いと思った。ICTの使用による弊害の一つである「書く力の低下」にも配慮を望む。	分かりやすい授業を目指し、小教研や外部の研究会に参加して専門性を高めたり、校内研究や教材研究を通して授業力高めたりすることで、児童の学習意欲を向上と基礎学力の定着を図っていく。
		考える場・話し合う時間の設定を通じて、考える力・表す力の向上を図る。	100	80	85	88	A	教員は教材研究や授業改善の工夫を行い、考える力や表す力の向上に務めている。保護者に考える力・表す力の向上を図っていることをみとめる場が理解されていない事が考えられる。	校内研究や小教研、外部研究会の参加を通してさらに教員の授業力向上を図っていく。	A	先生方は授業への工夫をとてもしていることを授業公開で感じることが出来た。学校のもつ最重要テーマでもあり今後の充実を期待します。今後も校内研究や研究会を通して授業力向上を求める。	保護者アンケートでの保護者の評価をやり易くなるように工夫していく。分かりやすい授業を目指し、小教研や外部の研究会に参加して専門性を高めたり、校内研究や教材研究を通して授業力高めたりすることで、児童の考える力や表す力の向上を図っていく。
		読書貯本通帳・読書月間の取組を通じて、読書好きの子供を増やす。	92	73	67	77	B	全校朝会や、校長室前の廊下の掲示など、取り組み具合が全校で共有できたのは、子供たちも嬉しく感じ刺激になったと思います。児童の肯定的評価が低いことが気になる。活動に工夫が必要である。	家庭での読書の奨励や蔵書数の増加等、対応策の検討が必要である。	B	学校司書の活動の報告で、図書室の閲覧などでも工夫されていると思うので、子供たちが本に触れる機会が多くなれば良いと感じた。家庭と連携しながら読書に興味・関心をもてる活動を進めて欲しい。家庭で両親が本を読んでいるところを見せることも児童が本を身近に感じる一要因になると思う。	読書活動重点推進校としての取組は終わるが、継続して学校司書や読書ボランティアを活用し読書好きの児童を増やす取組を行っていく。興味関心の高い内容の本から読み進めていく等、家庭での読書の奨励を推進していく。
3	「健やかな体の育成」の育成を目指す	縄跳び旬間・持久走旬間などの一校一取組運動や休み時間の外遊び啓発を通して、体力の向上を図る。	100	99	87	95	A	持久走旬間では中休みに積極的に取り組んでいた。感覚作りの運動をいろいろ行ったことで、少しずつ動きが良くなっているように感じる。	今年度の取組は継続していくとともに、家庭での体力向上の取組を推奨する。	A	休み時間等での積極的な取組はとても良いことだと思った。今後も継続していただきたい。鬼ごっこなど昔遊びも楽しんで欲しい。	体育の授業改善や一校一取組運動、外遊びの啓発、2020レガシーによるトップアスリートの招聘を通して体力向上の取組を推進する。また、家庭での体力向上の取組も推奨する。
		保健指導の充実を図る。「元気チェックカード」や感染症対策を通じて、健康的な生活習慣づくりを進める。	100	88	91	93	A	元気チェックカードやほみがきカレンダーを通して、家庭の様子や、良いところ・課題等を見取ることができたので指導に活かしていく。計画や目標等を見直し、反映させていく。	今年度の取組を次年度も継続して取り組んでいく。	A	児童からの評価から、厳しいコロナ禍等の環境の中、健康づくりの結果として成果に表れている。元気チェックカードなど学校へ提出することで家庭の様子が分かり保護者の意識付けにもなる。	元気チェックカードやほみがきカレンダー等の取組を通して各家庭と連携して健康的な生活習慣づくりを推進していく。
		日常の安全指導や避難訓練を徹底させ、命を大切にすることを図る。	100	91	95	A	月一回の避難訓練では「一番大切な命を守るための授業」として真剣に取り組んだ。保護者からも十分な肯定的評価を得ている。	命を大切にすることを教育の充実を継続していく。	A	避難訓練を通して命の大切さの学びにつながり良いと思った。継続して命の大切さを推進する。国内での災害発生状況の中で、児童と保護者への「自助・共助」の重要性の取組を検討できないか。	月一回行う安全指導と避難訓練は、ねらいを明確にした指導を行ったり、真剣に訓練に取り組ませたりすることを継続していく。避難訓練の想定は、いろいろな条件を想定して行い命を大切にすることを充実させていく。	
4	「その他」の育成を目指す	学校便りやホームページ、スクリレの活用を通じて、開かれた学校を推進する。	100	88	94	A	保護者から十分な肯定的評価を得ている。年度途中からグーグルフォームにより欠席連絡も可能としていることも評価を高めていると考える。	スクリレやホームページでの情報発信をさらに充実させていく。	A	ホームページについては長期間「準備中」の項目が見受けられます。教職員皆様の負担増にならない配慮の上で充実をお願いします。欠席連絡が便利になった。	スクリレを通して学校だより等の各便りを伝えたり、ホームページを活用して教育活動を伝え開かれた学校づくりを推進していく。今後はホームページの全ページを更新していく。	
		教職員が、それぞれの専門性を発揮するとともに、一致協力して教育活動に当たる。	100	70	85	A	評価不可の保護者が26%いた。保護者は教員の専門性向上や協力した教育活動について評価をすることが十分に理解できていないと考えられる。	三校合同研修会や校内研、小教研等により専門性を高める努力をしていることを保護者に伝えていく。	A	学校側の行いは、保護者が実際に見に行くことでより理解が深まると思う。保護者から見て、肯定的評価が低く、評価不可の回答が高い傾向が長期間続いていることから、設問の意味が分かりにくい可能性も考えられる。	学校公開や授業参観、道徳授業地区公開講座の通知を通して保護者に教育活動を参観できる機会をしっかりと確保したり、保護者アンケートの評価の仕方やの観点を伝えたりして評価の信頼性を高めるようにしていく。	
		行事や授業の連携を通じて、西中学校区や幼保・様々な公共機関との交流を推進する。	92	71	82	B	評価不可の保護者が23%いた。保護者の評価が低いのは、三校合同引き渡し訓練の日程の問題があったり、保育園との交流が伝わっていかたりすること原因と考えられます。	引き渡し訓練など、三校で行う行事などについては、調整を図っていきたい。	B	学校と地域連携を生かした今年度の周年記念事業に見られた成果のようにPTAを取り込んだ積極的な交流推進に努めてもらいたい。保育園と学校の交流では良い体験ができた。	いじめゼロの取組や合同引取訓練等、西中学校区校の三校で連携して行っている行事について保護者にスクリレやホームページ等を通して周知を行い評価の信頼性を高めるようにしていく。	